

## 2023年度 自己評価及び学校関係者評価書

認定こども園カトリック聖園こどもの家

◎ 園の教育目標 『自分で考え、判断し、主体的に行動する子ども』

- ・やさしさと強さをもった子ども
- ・すべてのことに感謝する子ども
- ・人を大切にし、思いやりのある子ども
- ・祈りを通して、平和を愛する子ども

○ 今年度の経営の重点

- ・組織的な研修による保育の質の向上  
(「10の姿」のカリキュラムの学びなおし)
- ・経営参画意識の向上(副主任、保育リーダーに責任を持たせ業務を遂行させる)
- ・未就園児教室の広報活動の充実化(ホームページの更新、ちらしの掲示など)

■ 自己評価結果に対する関係者評価 <評価はA、B、C、Dの4段階> ( )は昨年度の達成率

分野	評価項目	自己評価		関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
教育・保育計画の編成と実施内容	園の建学の精神にあるキリスト教の理念を理解し、こども園教育・保育要領に基づき子どもの生活実態に即した計画作成に努めている。	A 93.3 (93.1)	・外部講師によって、有名絵画が意図するキリスト教の理念、または、聖書の意図することを今年度も学んできた。各学級では、学んだことを咀嚼して子どもたちへの保育に活かしてまいりたい。	A	A
	0歳児から就学前までの園児の発達の連続性を考慮し、生命保持や情緒の安定など養護の行き届いた保育・教育を展開している。	A 96.7 (93.1)	・幼保連携の「こども園」に勤務する限り、幼児・乳児両方の保育の専門性を深めていく必要がある。双方の連携を強めながら交流を行い、研修計画にも位置付けて互いに学び合いたい。	A	A
	園児一人一人が主体的に活動し自発性や探索意欲を高めるとともに自分への自信を持つことが出来るよう適切に働きかけている。	A 93.3 (82.1)	昨年度に比較し、ポイントが大きく伸びている。各保育教諭が子どもたちに主体性・自主性を育むことを意識し、自己肯定感を培う日々の保育を行っている表れだと考える。今後とも「ねらい」をしっかりと意識したい。	A	A
	乳幼児同士のかかわりの姿を捉え一人一人が安定感を持ち、友だちと思い合ったり協力したり出来るよう働きかけている。	A 80.0 (69.0)	・この項目もポイントがのびている。コロナが5類となり幼児、乳児の交流の場が増えてきた表れと考える。今後とも保育、行事を吟味し、互いに思いやる関係を築いてまいりたい。	A	A

関係者評価委員による意見		保育のねらいがしっかりと立てられ、計画性をもって実践が進められている。			
分野	評価項目	自己評価		関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
保育教諭としての資質の向上	キリスト教の教えを学び、乳幼児に伝える指導法を研究したり、日常的に宗教講話や神様の話をしている。	A 80, 0 (77. 4)	・待降節などの宗教行事を通して指導の在り方を見合い自分の指導に生かすことが出来たのではないかと。また、朝のお祈りなどにおいて、宗教の話を積み重ねが子どもたちに浸透しているのではないかと。	A	A
	組織的な研修を行う中で、時代の流れ、求められていることをしっかりと捉え、日常の保育に生かしている。	B 73, 3 (83. 9)	・ただ一つのB評価であった。次年度は研修課題を吟味し、年間計画をしっかりと立て、それぞれが学んだ内容を日々の実践に生かせるよう手立てを講じたい。また、研修内容を全職員がより周知できるようにしたい。	A	A
	資質の向上を図るため、主体的、計画的に研修会や研究会に参加し終了後は研修報告を提出し還流を行っている。	A 90, 0 (93. 8)	・今年度は昨年度の2倍の延べ人数100人が園外の研修に出向いている。職員の研修意欲の一端が伺われる。帰園後の報告書の提出は根付き、還流活動も定着している。希望する研修を受けられる体制を保持したい。	A	A
関係者評価委員による意見		今日的課題である「学びの架け橋」「10の姿」などについて、計画がしっかりと立てられ、研修が進められている。研究会、研修会の参加者が増えたことは良いが、先生方の忙しさは、解消されているのだろうか。			
子どもの安全と健康を	危機管理に関するマニュアルが整備され、適切な環境の維持に努めるとともに施設内外の設備、用具等衛生管理に努めている。	A 96, 8 (93. 9)	・危機管理マニュアルは毎年見直し改訂を行っている。設備用具点検についても、係が毎月点検を行い、主任・園長に報告している。緊急を要する要件には、全員に周知し、直ちに修理を行ってきた。緊張感をもって点検作業に当たりたい。	A	A
	事故の発生に備え、自然災害や不審者侵入に対する訓練を行い、事後反省点を洗い出し改善を図っている。	A 90, 0 (90. 9)	・毎月実施する避難訓練は、回を追うごとに内容が難しくなっていくが、子どもたちは嗜好行動をとるようになってきている。係が反省点を見出し、全員に周知し、次回以降の避難訓練に生かしている。	A	A

守 る 方 策	乳幼児期にふさわしい食生活が展開され、適切な援助が行われるよう、食事の提供を含む食育計画を作成しその評価及び改善に努めている。	A 96. 8 (96. 9)	・今年度も食育計画に基づいて、望ましい食事の定着を図ってきた。また、管理栄養士による園だよりの「食のコーナー」は保護者の評判がよく、ユーモアを交えながら、給食時の様子、食材の栄養などについて伝え、啓蒙活動を行っている。	A	A
関係者評価委員による意見		食育への対応として、園だよりでコメントや資料提示などで家庭への啓蒙を図っている。			
分 野	評 価 項 目	自 己 評 価		関係者評価	
		達成 状況	改 善 の 方 策	自己評価 の適切さ	改善策の 適切さ
子 育 と の 連 携	保護者との信頼関係を築き、日常的に子どもの成長を伝え、子育ての相談に応じ「ともに育てる」という思いを高めている。	A 87. 1 (76. 7)	・若手の保育教諭も先輩に学び、どの職員も保護者の方々との関係作りに努めている。その中で、子どもの成長を伝え喜びを分かち合い、家庭と園で「ともに育てる」意識の醸成を図っている。	A	A
	本園では、子どもが健やかに育成される場所を提供し、地域の乳幼児、卒園生の教育及び保育の中心的な役割を果たすよう努めている。	A 100 (96. 7)	・「未就園児教室（エンゼル教室、せいえん広場）」、「子ども会（卒園児対象）」は今年もほぼ予定通り行い、未就園児の親子、小学生に楽しいひと時を過ごしてもらうことが出来た。	A	A
関係者評価委員による意見		新人へのレクチャーも行き届いている。			
開 か れ た 園 づ く り	園だよりやホームページ、参観・懇談などを通して園の情報を広く公開するとともに保護者・地域の声にも耳を傾け、双方向に開かれた園づくりに努めている。	A 93. 5 (78. 8)	・今年度HPの更新を行い、園の情報が新しいものとなった。また、二重のチェックを行いながらブログの更新を定期的に行い、園の状況を発信している。緊急を要するお知らせはレーザーキッズで保護者に情報を伝えている。	A	A
	小学校訪問・交流などで小学校教育への円滑な接続を図るとともに、商業施設を含めた地域との連携の中で季節を感受する子どもの心を育てている。	A 93. 3 (90. 3)	・近隣の中央小学校とは、5年生と図書館での交流、学習発表会（練習）の参観など、年間を通じた交流を行うことが出来た。交流を定着させていく中で、「学びの架け橋」を念頭に、ねらい、内容等を小学校と協議し、質の高まりを図りたい。商業施設との関係ではツリー点灯式における合唱の発表が復活した。	A	A

	園の評価結果を公開することにより、透明性を図り信頼される園を目指している。	<p style="text-align: center;">A</p> <p>96.7 (100)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 年度による達成率の比較により、どの項目が上がっているのか、下がっているのか、全体としてはどうなのかという評価結果を示し、また、対策なども記載する中で保護者をはじめ外部への透明性を図っている。</li> </ul>	A	A
関係者評価委員による意見	行事への準備、実施は時間も労力もかかるので、その評価項目も欲しい。				
関係者評価委員による評価、改善方策に関する全体への意見	<p>A 評価が 14、B 評価が 1 つであった。同じ A 評価でも、昨年よりポイントが上がっているのは 10 項目であった。</p> <p>評価の高さは、実践レベルの高さを物語っている。また、記載されている改善策も適切である。</p>				